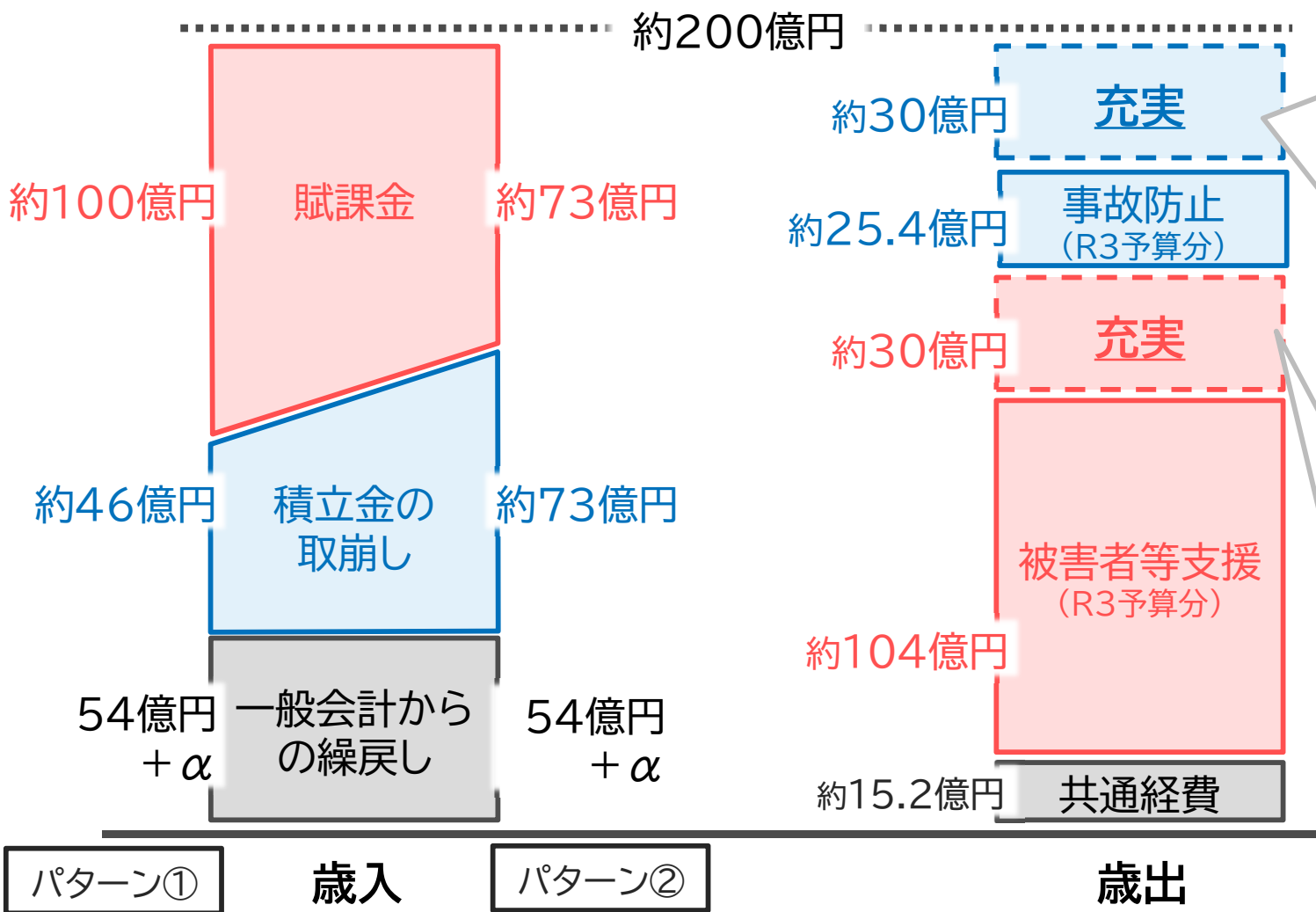


論点整理③

令和3年12月27日
自動車局

今後の自動車事故対策事業の歳出規模の試算

事故防止及び被害者支援として今後必要な施策を行う場合には、それぞれ約30億円の追加予算が必要(歳出全体200億円規模)



事故防止

- 事業項目
- 自動車安全性能の見える化
 - 先進的な安全技術の普及促進
 - 運行管理の高度化
 - 飲酒・健康起因事故対策
 - 事故原因分析の強化
 - 過労運転防止対策の強化
 - その他事故防止に資する事業

被害者等支援

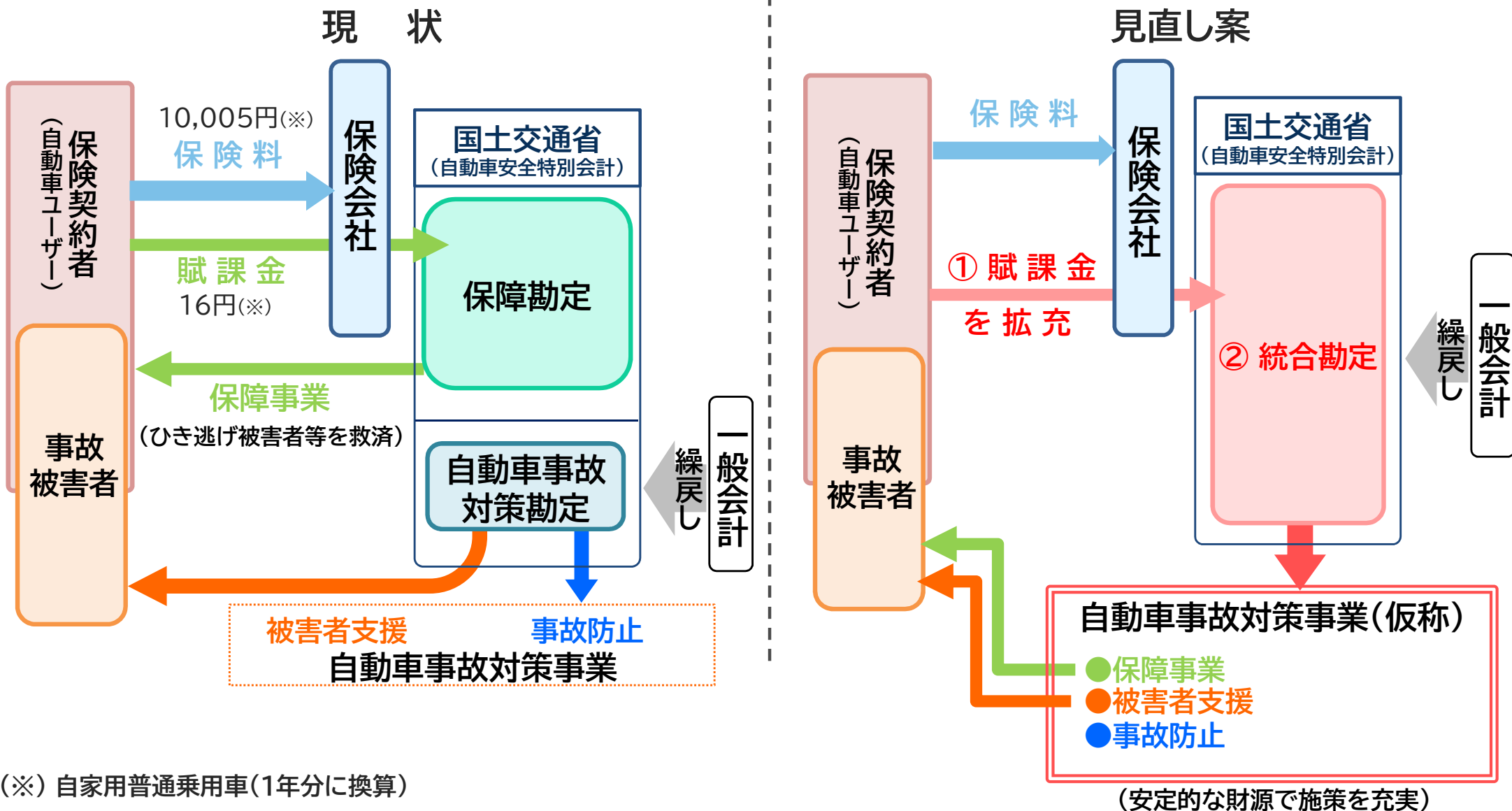
- 事業項目
- 療護施設の充実 (老朽化対策・リハビリ強化)
 - 介護者なき後対策の強化
 - 短期入院・入所協力事業の充実
 - 脊髄損傷者の中長期入院
 - 高次脳機能障害者の社会復帰支援
 - 事故被害者・遺族等に対する情報提供の充実
 - その他被害者等の救済に資する事業

※概算であり、必ずしも合計額は一致しない。 1

これまでの議論を踏まえた論点整理

財源確保に関する議論

- ① 自動車事故対策事業の安定的な財源を確保するため、**賦課金の額の充実**と**用途拡大**を図ってはどうか。
- ② 保障勘定と自動車事故対策勘定を**1つの勘定に統合**し、業務の合理化を図ってはどうか。



【参考】自動車事故対策勘定における積立金の水準について

現行の積立金の位置づけ

- ✓ (運用益を)自動車事故対策計画に基づく交付等の**経常的な歳出**の財源に充てるもの。
- 被害者等支援：療護施設の設置・運営、介護料の支給、訪問支援等
 - 事故防止：先進安全自動車(ASV)の普及、自動車アセスメント等

賦課金導入後一定期間における積立金の位置づけ

- ✓ **経常的な歳出の一部**に充てる財源に充てるもの。
 ※経常的な歳出の財源：積立金の取崩しと一般会計からの繰戻し、これらの財源で賄いきれない部分を賦課金で穴埋め

積立金の将来的な位置づけ

- ✓ 自然災害や感染症対策などの非常時への備え等の**臨時的な歳出**の財源に充てるもの。
 (現行の積立金で賄っている毎年度の経常的な歳出は一般会計からの繰戻しとこれでは賄いきれない部分を賦課金で穴埋めすることにより賄う。)

【療護センターの被災時の対応等】

項目	建設+土地取得費 (R2年度水準)	高額医療機器 導入経費ほか
千葉療護センター(増床含)	約37億円	約61億円
東北療護センター(増床含)	約38億円	約32億円
岡山療護センター	約42億円	約50億円
中部療護センター	約36億円	約50億円
合計	約150億円	約200億円



感染症対策や
緊急の交通安全対策等への備え



合計
500億円規模

今後の進め方

- | | |
|------------|--|
| 令和3年12月27日 | 第5回 今後の自動車事故対策勘定のあり方に関する検討会 |
| 令和4年 1月メド | 第6回 今後の自動車事故対策勘定のあり方に関する検討会 中間取りまとめ |
| 令和4年 3月以降 | 第〇回 今後の自動車事故対策勘定のあり方に関する検討会
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; text-align: center;">詳細な賦課金額の水準、自動車事故対策事業の歳出のあり方を検討
(1~2ヶ月に1回程度の頻度で実施)</div> |
| 令和4年 秋頃 | 第〇回 今後の自動車事故対策勘定のあり方に関する検討会 最終とりまとめ |

1 安定的な財源の必要性

2 安定的な財源確保のあり方

3 安定的な財源の使途

4 実施時期及び継続検討事項